

# 矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.1



発行日：平成28年6月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆第32回山部会WGを開催しました！

5月27日(金)～28(土)に第32回山部会WGが上矢作コミュニティセンターにて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、今年度の目標を話し合いました。



日時：平成28年5月27日(金)～28日(土)  
場所：上矢作コミュニティセンター会議室  
参加者：17名(事務局含む)

## ◆主な会議内容

### 1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成27年度までの3ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する64団体の取材を行い、とりまとめを行ったものです。

新年度にあたり、本活動から得られた効果の検証を行うとともに、事例集の活用と今後の活動について意見交換をします。

これまでに刊行された山村再生担い手づくり事例集Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ



### 2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、今年度の活動について、以下の2つを提案します。  
一つ目は、「流域に関わるお祭りの実施」です。山では昨年「もみじ市まつり」が終わりました。川では昨年「矢作川・川会議」、「矢作川学校」とも見直しの時期に入っています。そこで、山と川の接点となる河原で流域祭をやってみたいと考えています。  
二つ目は、流域すべての森林組合の作業班を対象にヒアリングを行います。流域の山づくりを支える人々が、何を原動力に汗を流しているのか、何が足りなくて力が発揮できないのかを明確にし、流域の問題を解決に導きたいと考えています。  
皆様のご意見をお聞かせ下さい。

### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、大きく3つの項目について情報交換・意見交換を行います。

#### ①流域市村の間伐面積の推移

流域市村の林業の動向を把握するため、関係団体への情報収集を継続します。

#### ②矢作川流域の特徴的な森林と巨木・並木の選定

流域圏懇談会として、推薦したい流域内の森林を外部に発信していきます。

#### ③流域自治体の森づくりに関する動向の把握と意見発信

流域圏懇談会として豊田市、岡崎市の取り組みを把握し、意見交換を行うとともに、より望ましいと考えられる意見を発信します。

### 4. 恵那市・根羽村におけるフィールドワーク

フィールドワークとして、以下の3箇所の視察を行いました。

- ①達原溪谷「喉の滝」崩壊箇所(岐阜県恵那市)
- ②上矢作の天然水「福寿の清水」(岐阜県恵那市)
- ③明治用水水源かん養保安林(長野県下伊那郡根羽村)



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ぬくもりの里に事例集を持参した際に、所長から「事例集を活用して地元の大学や地域の人たちを巻き込んだ活動がしたい。」という意見をいただいた。この活動に参加した甲斐があったと嬉しく思った。(松井)  
▶ それは事例集の最も望むべき活用方法だと思う。(洲崎)
- ・離島や山間部など、外部との交流が難しい地域においては、活動で築いた人間関係が切れやすい。(高橋)  
▶ 年に1回程度交流の場として事例集ミーティングを開催できるといい。(洲崎)  
▶ 懇談会通信を定期的に送ってはどうか。(松井)
- ・取材した団体にアンケートを行って、集めた情報を発信するシステムを作ってはどうか。(高橋)  
▶ 事例集通信のようなものを年間1~2回作成して、ホームページで閲覧できるようにする。ネットがみられない環境の団体には発送してはどうか。(洲崎)  
▶ 矢作川流域圏懇談会通信に1ページ追加して、事例集「取材先のその後」を掲載してもいいと思う。(丹羽)
- ・先ずはこれまでの結果をホームページに公開し、外部への発信を急ぎたい。本日は、とても建設的な意見交換ができたと思うので、まとめて次回の懇談会に活かそうと思う。(洲崎)

### ●山村ミーティングについて

- ・川部会の関係者にも声を掛けたら、「最初は小規模でいいから動き出しましょう」との返事をいただいた。今年は矢作川流域の「流域祭」を始動させ、ヒアリングによる人間関係が拡大できたらと思う。(丹羽)  
▶ それはヒアリングをすることで、人と人が繋がるという解釈で良いのか。(洲崎)  
▶ その通り！いつもの考え方。(丹羽)
- ・山に携わる人々が、他地域から移り住んで、どんな苦勞をしているのか。何をモチベーションとして頑張っているのかを共有できれば素晴らしいと思う。(小林)
- ・スイスのフォレスターによる研修会が先日行われたが、豊田市森林組合の前向きな姿勢に驚いた。それは、今後の林業に対して危機感をもつようになったからだと思う。その動きについても、ヒアリングを通して、地域の森林組合が持つ悩みなどを明らかにしたい。(丹羽)
- ・川に関しては、矢作川水族館のメンバーが山関係の人との連携によるイベント実施を考えている。うまく合流できる部分があれば、皆が一つになって力を注げるといいと思う。(洲崎)
- ・山に関しては、矢森協、木の駅、森林組合、ボランティア、奥矢作森林塾と様々な団体があるため、本格的な実行には時間がかかるかも知れない。今年は、構築した人間関係を活かし、実際の行動に移す年としたい。(丹羽)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・補助金が削減される中で、搬出間伐はより厳しいものになっている。(土屋)
- ・豊田市中核製材工場の稼働というニュースは、岐阜県恵那地域における木材生産に影響を与えるのか。(蔵治)  
▶ 恵那管内の製材工場は、スギが主であり、ヒノキの産地である恵南地域には不利であった。ところが、今後稼働する中核製材工場はヒノキが主であることに加え、搬出可能な距離であるため、大いに期待している。(土屋)
- ・補助金が減っている中で、木材生産を上げるには、皆伐をして売るという手もあるが、可能性はあるか。(蔵治)  
▶ 岐阜県全体の傾向は、主伐後に植栽をしないため、若い山がほとんどないのが現状だ。しかも、近年はシカの食害も加わった。そんな中、林業生産エリアと天然更新するエリアに分けるゾーニングを行っている。特に天然更新については、ササ原に移行し、本来の植生遷移が進まないという課題があるが、今後の活路であるため真剣に検討を進めたいと思う。(土屋)
- ・奥矢作森林塾では、今年度から予算をとって、木材資源の調査を進めている。(原田)  
▶ GISを購入して、串原地域を一元的に管理したいと考えている。現在は、地域の中にどんな木材資源がどのように分布しているかを調べる段階である。(小林)
- ・串原地区は、ダム建設による離村のため、地籍調査が進んでいないのが現状だ。手つかずの林地も多く、大きな課題となっている。(大島)  
▶ 矢作ダム管理所の仕事として位置付けていただきたい。(蔵治)  
▶ 恵南豪雨の際の大量の流木も、放置された山に原因があると思う。しっかり認識したい。(大森)
- ・流域の森に関して生産性、生態系、防災、水資源、景観など、どこにどういう森があることが望ましいのか、一度整理できるといいと思う。理想像を追及するのは流域圏懇談会にしかできないことだと思う。(洲崎)

## 今後のスケジュール (予定)

次回の山部会WGは、6月17日(金)豊田市にて開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

